

てしかが

てしかが歴史写真館 205



武四郎の記述通りに存在していた洞窟

一夜を過ごした神の宿るいわや・マシュウホロ
—松浦武四郎メモリアルイヤー—

武四郎さん一行は、カムイヌプリ(摩周岳)登頂を果たした(とされる)後、湖岸まで下りています。摩周湖の岸では、わずかにここだけが砂浜になっていて、岸の砂も岩もすべてが赤く、焼けただれた石である—という記述が続きます。後に、この場所を「武四郎浜」と呼んだ時期もありました。

さらに三町(約324メートル)ほど岸伝いを進んだ先にあったのがホロ(洞窟)です。高さ一丈(約3メートル)、中二丈(約6メートル)、奥行五、六間(約10メートル)も入ることができる—と書かれた岩穴は、深部で二手に分かれており、男女それぞれの神が宿るところ、と考えられていたとか。ここにもやはり、アイヌの人たちが作り納めたイナウ(本幣)がたくさん立てられていたようすが残されています。

今から30年ほど前。当時の会員12人が武四郎の記録を検証するために、新暦で同じ日に当たる5月21日~22日にかけて摩周湖探検を行いました。関係署庁への許可申請や必要物資の調達を経て実際に現地へ到達した面々は、記録通りに洞窟を見つけた瞬間、感嘆の声を挙げたそうです。参加した会員の一人は、「満足な測量器具や筆記用具もない時代に、ほぼ正確な記録を後世に残した、その偉業をたたえたい」と報告しています。

「ゆたかにも 岩の根枕 まきてしる これぞゆるがぬ 御代のためしと」
ふと思ひ浮かんだという一首を岩の面に書き記したという武四郎さん。近年、ホロは水没が進むとともに上部崩落が起こり残念ながら姿を消しつつあります。しかし、彼がアイヌの人たちと刻んだ足跡は、いつまでも消えることがないでしょう。

てしかが郷土研究会(斎藤)

主な内容

- 新たな地域おこし協力隊員が着任……②
- 地域おこし協力隊活動報告会……④
- 滞納整理強調月間です……⑥
- 身近なことから環境について考えてみませんか……⑫
- 第87号町議会だより第1回定例会……⑮
- 入園式 入学式……⑳

「ドキドキの入園式」

4月8日に行われた摩周丘幼稚園(鈴木光榮園長)の入園式での1コマ。担任の先生にといっしょにドキドキの入場です。
(関連記事32~33ページ)